

『認知症ケア』研修

社会福祉法人 緑成会

〒225-0025 横浜市青葉区鉄町 2075 番地 3

助成事業の概要

認知症を患っていても住み慣れた地域と馴染みの関係の中で安心して生活が続けられる。これが、わが法人の望む認知症高齢者の支援の姿である。例え一人での在宅生活が困難になり、生活の場が施設になってしまったとしても、地域と一体になって施設が取り組めば高齢者自身の歴史のある土地と仲間の中で過ごすことは出来る。

認知症の高齢者との関わりは、援助者が認知症を疾病として理解が出来ていることや裏付けされた根拠のある介護が提供できなければ、認知症高齢者への尊厳のあるケアは出来ないと考える。

年間を通して、認知症の権威である五島シズ氏と八森淳氏の2名の講師をお招きし認知症を患った高齢者についての疾病や接し方を学び、日頃のケアの振り返りや新たな発見ができる機会を作ることが目的とした。また、今回は研修を通し近隣事業所へも参加の呼びかけを行うことにより、職員間の交流を深めることや、共通のテーマに取り組むことで介護の現場の認知症ケア水準が上がることも目的とした。

事業の成果

今回の『認知症ケア』研修は、2名の講師を招いて年4回のシリーズで行った。

第1回目 平成24年6月14日 認知症の基礎知識 五島シズ講師

第2回目 平成24年10月11日 BPSD ケアの手法 五島シズ講師

第3回目 平成24年11月8日 認知症とプライマリ・ケア 八森淳講師

第4回目 平成25年2月14日 回想法の理解と導入 五島シズ講師

近隣事業所11か所にチラシを持参し趣旨の説明と参加を依頼。趣旨理解事業所8か所が毎回研修に参加された。当事業所の職員も含め全4回で延べ436人が研修を受講した。

認知症の理解やケアの研鑽について、実際の認知症の高齢者に関わっている職員や地域の高齢者の相談援助を業種としている職員がこのような研修を望んでいる事が伺えた。

認知症ケアアドバイザーの五島シズ講師の研修内容については、講師である五島氏が認知症ケアの第一線で取組まれていた頃の実体験を中心に話が展開、臨場感のある内容でありながら、裏付けされた根拠のある介護方法の紹介がされ、研修参加者からは「翌日から実践してみます」「認知症高齢者の心が見えた気がします」などの感想が多く聞かれた。

また、医師として認知症の高齢者に関わり地域のネットワークづくり等に積極的に取組まれている八森淳講師の講演では、疾病としての認知症の解説もやはり講師の実体験を通しての話が多く、医療と介護の連携がいかに認知症高齢者を支える上で大切なのかを身を持って感じる事の出来る内容であった。

一方、1年間を通し研修をおこなったことで、希薄だった近隣事業所との垣根がなくなり、施設間での情報交換や職員が企画した合同研修会の開催、施設交換体験実習等の展開にも発展したこと

も成果だと感じている。

■ 今後の展開

「認知症ケア」研修を企画し、近隣事業所にも呼びかけ 1 年間をかけて「認知症」について共に学んだ。職業として認知症の高齢者に関わり支える立場の私達にとっても、再確認出来る事や新たな発見の多い研修であった。今回の研修を通して学んだ内容を、日頃の介護や相談支援に実践的に生かし、認知症の方が尊厳を持って過ごせる施設運営や地域作りに努めて行けるようにしたいと考える。また、今回関係する事が出来た事業所とも交流を深め、協働して地域の方々に対しての認知症啓発活動なども展開し、認知症のある高齢者に対し地域全体でやさしい見守りが出来るようになればと思っている。